

## 研究ブランディング事業特集

### 「巻 頭 言」

久留米工業大学 学長 今泉 勝己

2018年に採択された文部科学省 私立大学研究ブランディング事業「先進モビリティ技術で多様な人々が能力を発揮できる、Society 5.0に基づく「いきいき地域づくり」」が3年目を迎え、研究成果が着実に実ってまいりました。ここに、その成果の一部をご紹介できることを嬉しく思います。

本事業の内容は、移動に不安を感じておられる高齢者や障がい者のための「適切なモビリティサービス」を考えるもので、本学の建学の精神である「人間味豊かな産業人の育成」に深く根差した事業です。2015年にインテリジェントモビリティ研究所を設立して以来、多くの企業や団体の皆さまに支えられて進めてきたこの取組みは、2018年に上記事業に選定されたおかげで研究が大いに進み、その成果の一部はすでに社会実装されつつあります。

超高齢社会、新型コロナウイルスなど、難しい課題に世界は直面しておりますが、本学は強みとするモビリティ技術や、人工知能などの先進技術で課題を解決し、すべての人がいきいきと活躍でき、豊かで安心安全に暮らせる社会の実現に貢献して参りたいと存じます。

インテリジェントモビリティ研究所 所長 東 大輔

Society 5.0に基づき、強みである先進モビリティ技術を活用して多様な人々が能力を発揮し、いきいきと活躍できる社会の実現に貢献する。これが本事業に込めた我々の想いです。2015年にインテリジェントモビリティ研究所を設立した際、開学から強みとしてきたモビリティ技術で社会に貢献したい、学生諸君に工学の意義と、それを学ぶ喜び、誇りを伝えられるプロジェクトにしたい、との想いでリソースを集中し、真摯に取り組んで参りました。

本事業の中核をなす対話型 AI 自動運転車いす「パートナーモビリティ」は、クラウド上のデータベースに基づき、AI 対話で行き先を相談でき、自動運転で目的地まで案内する先進モビリティです。自動車開発経験者が多く在籍する本学は、自動車開発と同様の手法で、優れた技術を有する企業や団体と連携し、「大学の研究で終わらせない、必ず社会実装する」という想いでスピーディに開発を進めて参りました。介護医療をはじめ、空港、ショッピングモールなどでの実証試験も進み、すでに一部のサービスは社会実装されつつあります。

その一方で、サービスの利便性や安全性をさらに高める目的で、各要素技術の先行研究にも力を入れております。自動運転などの先進モビリティ技術を担う交通機械工学科はもちろん、ロボティクス技術で機械システム工学科、センサー技術や人工知能技術で情報ネットワーク工学科、福祉都市計画で建築 設備工学科、サービス効果検証で教育創造工学科というように、全学科がそれぞれの強みを活かし、先行研究を進めてまいりました。本特集では、それら研究成果の一部をご紹介します。高齢者や障がい者が安心して暮らし、いきいきと活躍できる社会の実現を目指す、本学の取組みを知っていただければ幸いです。